

作業環境測定における現実的なデザインの3要素

環境・健康

作業環境測定におけるデザインは、特別規則（粉じん則、有機則、特化則など）、告示（作業環境測定基準、作業環境評価基準）等に基づき行う必要があります。一方で、デザインは経費（測定料金）面からの制約を受けることがあります。また、管理区分に基づく措置とともに、各測定点での結果からの情報に基づき対策についてコメント（アドバイス）することがあります。

このような状況を踏まえた日常的な作業環境測定における現実的なデザインの3要素を下記に示しました。いかに〔客観性〕があり、かつ、必要な〔情報〕が〔効率〕よく得られるデザインを行うかは、測定士として苦慮するところであり、腕の見せどころでもあります。

作業環境測定における現実的なデザインの3要素

3要素	備考
客観性	<ul style="list-style-type: none"> 作業環境測定結果の評価（統計処理）は、客観性（無作為）が前提 特別規則での評価の結果に基づく措置の規定上、客観性は重要 〔作業環境測定が恣意的にならない〕
情報	<ul style="list-style-type: none"> 発散源対策上、発散源の情報は重要 〔作業環境測定の基本的事項〕 呼吸用保護具の使用上、作業空間への拡散の情報は重要 改善対策上、各測定点での結果からも有用な情報が得られる
効率	<ul style="list-style-type: none"> 経費面（測定点数等）と情報量等との兼ね合い 〔費用対効果〕 測定料金面からも効率のよい測定は重要

kes サポート

目的	課題	kesサポート
把握	作業環境への有害物の発散状況	作業環境測定
	作業者の有害物のばく露状況	個人ばく露モニタリング
	既設の局所排気装置の性能	局所排気装置性能検査
改善	作業環境への有害物の発散抑制	排・換気設備の改善・設置
	有害物の体内侵入防止	呼吸用保護具、保護手袋等の使用
教育	有害物取扱い作業者の衛生意識の向上	労働衛生教育